

アクアセンターの利用推移および課題 和氣 生也

1. アクアセンターの業務概要

スポーツ開発・支援センターの仕事の一つにアクアセンターの管理業務がある。この仕事は表 1 に示す通りである。この業務は、担当職員によってなされている。担当職員は、アクアセンターの利用者管理、施設管理、授業対応、部活動対応などの施設運営を実施している。

(表 1) アクアセンター業務概要 代表的な業務を記す。

	仕事	頻度	対象	内容
1	開室・閉室	毎日	管理	忘れ物チェック, 施設整頓, 戸締りなど
2	水質確認	一日に 3回	管理	水温や残留塩素を測定し, 水質を管理
3	清掃	週1~2回	管理	プール内の床磨きや, 更衣室内の清掃, プール清掃ロボット投入など
4	備品チェック	毎日	管理	備品の確認
5	部活動サポート	随時	学生	施設使用の調整, 個人相談を受け持つ 施設を整理, 清潔に保つため調整を行う
6	学生開放対応	毎日	一般	利用対応, 集計など
7	公開講座対応	随時	一般	受付, 記録など
8	授業対応	随時	学生	人数集計, 安全管理
9	一般利用 オリエンテーション	随時	一般	施設ルールや備品の貸し出しの説明, 安全管理など

2. 安全面について

アクアセンターの安全管理について重要な事項が 3 点ある。衛生管理・設備管理・救急処置対策である。この点に関して現状を報告する。

衛生管理には、プール内の水質とプールサイドの床などの管理に視点を向けなくてはならない。水質に関しては、3回/日の塩素数値の確認と1回/月の水質検査を行っている。そのため、塩素測定は異常値(0.4~1.0 mg/L 外)が出た時の早期の対応ができる体制となっている。プールサイドの清掃も5回/週に管理人と水泳部によってなされている。さらに、プールサイド床は床暖房も起動しており、菌の発生を抑える効果を発揮している。

アクアセンターには、ろ過装置やオゾン機器や貯水タンクなど多くの機械が存在する。各設備に不備が生じるとプールの水質にも悪影響を及ぼすことがある。そのため機械の定期的な点検とメンテナンスを行っている。

救急処置対策として管理人は、日本赤十字社が実施している、救命講習と水上安全救助の講習会に参加し資格を有している。その点で救急に対しての安全面の配慮を行っている。しかし、実際に資格を有していても実践できないと、知識や行動は連動されなくなる。そのため管理人は、常に知識や救助法の確認を行う必要がある。

3. 学生対応について

アクアセンターを利用する学生は、水泳部(競泳・水球)と授業を受講する学生、自主練習をする学生、リハビリテーションをする学生と多岐にわたる。

その中で、アクアセンターは水泳部が主となって管理できているのが現状である。ロッカー内の管理やプール内のマナー注意喚起、メンテナンスの日程調整などを行うリーダーミーティングを行っている。そこで月々の行事や予定を周知しており、管理人と学生との共通理解に役立っている。

4. 一般開放の実績と課題

アクアセンターでは本年一般開放の開放日数が減少した。それにも関わらず、参加者人数は増加しているという実績がある。開放日数が減少した理由として、授業数が増えたこと他団体の施設使用の受入、清掃などの業務を入れたためである。

それにも関わらず、参加人数が増加している要因として、一般開放の広報が地域に周知されてきたことと一般開放参加者の口コミが挙げられるだろう。

これによって開放日数が減少しても参加者が増加する、効率的な開放が実現している。その一方で、一日に対する一般開放の利用人数の増加につながっている。これは利用者同士の接触や事故率の上昇は避けられない事実である。

そのための課題として、コースの規制や開放時間の工夫、監視体制の工夫が挙げられる。コースの利用方法は、自由に使用していただいているのが現状で、特に何も規制を行っていない。現在は、利用者間同士で話し合っただき成り立っている。しかし、これから利用者が増加し、1コース10名以上の利用となると多くのトラブルが発生することが推測される。そのために、8つのコースに目的を設けそれに合ったコースで利用してもらうなどの規制が必要となると提案する。そして利用者の多くが女性ということもあり、水深が深い場所での対応も考えないとならない。今後は、道具などを工夫し背の低い女性でも利用しやすいプールづくりが、今後の課題となってくるだろう。